

## コロナ感染者、東北高止まり 宮城と岩手が全国ワースト1、2位 若年層中心に拡大、休校や学年閉鎖相次ぐ

9/18(月) 河北新報

新型コロナウイルス感染症の定点把握で、1医療機関当たりの感染者数は4～10日の週で宮城県が32・47人、岩手県が29・87人となり、都道府県でワースト1、2位を占めた。東北では7月から患者数が増え始め、高止まりが続く。若者を中心に感染が広がり、小中学校や高校の学級閉鎖に加え、入院や面会の制限に踏み切る病院も。専門家は屋内でのマスク着用など感染対策の継続を訴える。

### ■入院や面会の制限に踏み切る病院も

東北6県の1医療機関当たり感染者数の推移はグラフの通り。4～10日の週は宮城を除いて前週より減少傾向にあるが、山形以外の5県で全国平均(20・19人)を上回っている。

宮城県の保健所別では、仙南(57・57人)、大崎(42・70人)、石巻(42・30人)が突出する。県医師会の佐藤和宏会長は12日の記者会見で「仙南地方の基幹病院で入院を制限するなど、医療逼迫(ひっばく)が深刻化している」と危機感を示した。

関係者が懸念するのが若年層の感染拡大だ。厚生労働省によると、4～10日の週は、全国の感染者数のうち19歳以下が全体の47・9%を占めた。

### ■第9波「最大規模の認識共有」

学校現場にも影響が及んでいる。宮城県内の県立高では8月28日～9月1日の週に3校、4～8日の週に8校が学年閉鎖や学級閉鎖の措置を講じた。

石巻保健所管内の小中学校では、夏休み明けから今月15日までに石巻市で3校、登米市で8校、東松島市で2校が休校や学級閉鎖になった。石巻市ではインフルエンザによる学年閉鎖も3校あり、うち1校はコロナでも学年閉鎖を余儀なくされた。

石巻赤十字病院(石巻市)は今月7日から入院患者との面会の制限を厳格化し、当面は18歳以下による面会を不可とした。呼吸器内科が専門の矢内勝院長補佐は「院内感染のリスクを減らし、病院機能を維持するために実施した。状況が落ち着くまで、不要不急の面会を控えるようお願いしたい」と協力を求める。

現在の流行第9波について、矢内氏は「これまでと比べて今回は最大規模だとの認識を地域の各医療機関と共有している」と指摘。「重症化しづらいものの、感染がきっかけで誤嚥(ごえん)性肺炎や脱水などになった高齢者の入院が目立つ」と説明する。

### ■屋内でのマスク着用や換気を

新型コロナに関する厚労省参与の小坂健東北大学院歯学研究科長(公衆衛生学)は「東京都のデータでは10代の感染拡大が家庭内感染の増加を招いており、東北も似た状況だろう。夏休み中に若者の交流が活発化し、学校の再開でさらに感染が広がった」と解説する。

「猛暑で換気の少ない室内の滞在時間が増えた影響もあるが、多くの人々が『新型コロナは終わった』と考え、行動した影響が大きい」と小坂氏。屋内でのマスク着用や換気など、空気中を漂う微粒子「エアロゾル」対策の必要性を訴える。